

築上町立小中学校適正配置基本計画検討会議（椎田中学校区部会）会議録

開催日時	令和5年12月25日（月）18:00～19:50	開催場所	築上町役場 本庁 会議室3-1、3-2、3-3
出席者	[委員] 21名（欠席6名） [事務局] 9名 [傍聴者] 3名		
学校教育係長	1.開会 それでは、ただいまから築上町立小中学校適正配置基本計画検討会議 椎田中学校区部会を開会いたします。本日の進行を務めさせていただきます、築上町教育委員会 学校教育課 学校教育係長の岡部と申します。それでは、次第に沿って進行させていただきます。		
学校教育係長	2. 教育長あいさつ 次第2 教育長あいさつでございます。築上町教育委員会 教育長 久保 ひろみから皆さまにご挨拶を申し上げます。		
教育長	[教育長あいさつ（略）]		
学校教育係長	それでは、次第3に移る前に、次第3から5の進行役として座長の指名を行いたいと思います。築上町立小中学校適正配置基本計画検討会議開催要綱第6条第2項の規定に基づき、中村 信雄委員を座長に指名いたします。中村委員、よろしくお願いいたします。		
座長	3. 「第1回築上町立小中学校適正配置基本計画検討会議」について ただいま、座長に指名された中村です。よろしくお願いいたします。 それでは、次第3 「第1回築上町立小中学校適正配置基本計画検討会議」について、学校教育課から説明をお願いします。		
学校教育課長	学校教育課の鍛冶と申します。第1回築上町立小中学校適正配置基本計画検討会議についてということで、先日、委員の皆様には11月18日に開催された、第1回全体会議の会議録を送付させて頂いておりますがご確認を頂けましたでしょうか。当日は、記載のとおり36名の委員の皆様にご出席を頂き、いろんなご意見を頂きました。会議録については皆様に確認を頂いた後、ホームページに掲載する予定になってございます。 それから全体会議当日は、2件ほど持ち帰りということで、回答を保留させて頂いていた件がございます。まず1点目が、各保育園の保護者代表を委員に入れてはどうかというご意見でございました。持ち帰って検討いたしました。現在、未就学児の関係ということで、町の保育連盟に依頼させて頂き、園代表者として2名、保護者代表者として2名の計4名の方を選出頂いておりますので、事務局としましては、選出頂いた4名の委員さんからご意見を頂きたいと考えているところでございます。 2点目が、本検討会議に教育委員会の会議議事録を資料として提出してほしいというご意見でございました。こちらにつきましては、11月30日開催の教育委員会11月定例会議で、教育委員の方にご意見を頂いたところでございます。これまで教育委員会の会議議事録の公開については、教育委員会の定例会議において慎重に審議してまいりまして、その結果、令和4年10月定例会議以降の会議録を公開するということが決定		

されており、令和4年9月定例会議までは会議結果として会議概要を公開しております。結論としまして、公開していない（令和4年9月定例会議までの）教育委員会議事録を会議資料として提出（公開）をするということについては、控えさせて頂くということになりました。また、町長との意見交換の場である総合教育会議については、会議終了後、議事録を作成し、公開しているところでございます。本基本計画については、これまでの教育委員会会議での議論や総合教育会議での意見を踏まえた上で昨年10月に策定したということで、計画策定の背景や経緯、教育委員会の考え方等については、全体会議の中でもご説明させて頂いたと思っておりますので、ご理解頂きたいと思えます

4. 椎田地区小中学校地域コミュニティ一体型校の基本設計業務の概要について

座長

それでは、次第4、椎田地区小中学校地域コミュニティ一体型校の基本設計業務の概要について、教育施設整備室からお願いいたします。

教育施設整備室長

教育施設整備室の樽本でございます。私からは、椎田地区の小中学校地域コミュニティ一体型校基本設計業務の概要についてご説明させていただきます。整備スケジュールを御覧ください。令和5年度は基本設計業務を行っております。整備スケジュールとおりに入りますと、基本設計業務を令和6年4月まで実施し、令和6年度に基本設計に基づく実施設計業務の実施を計画しております。その後、令和7年度から令和8年度にかけて本体建築工事を実施し、令和9年4月の開校を目指しております。また、開校後の令和9年度以降に、現在の椎田中学校の校舎解体と解体底地の外構工事を行う予定でございます。スケジュールとしてはこのような形になっておりますが、本日は基本設計業務受注業者の設計担当者とリモートでつながっておりますので、基本設計の現在までの階層、そして居室等のイメージを御説明させていただきたいと思えます。

[設計会社説明略]

教育施設整備室長

本日、模型を用意しております。1階から3階までの諸室が上からどういうイメージなのかが分かるようになっておりますので、皆さんよろしければ、後ほど見ていただけたら、今の説明と諸室がどういう具合になっているのかというのが分かりやすいかと思えます。

なお、本日午後に先生方130名程に集まっていただき、先ほどと同じような説明をさせていただいて、先生方の視点から、ここはもうちょっとこうしたほうがいいんじゃないかとか、そういった意見も伺っております。これからそういった意見も反映させていきたいと考えております。

委員 A

ここまで基本設計が進んでいるとは思っておりませんでした。私の感想としては、この前あれくらい説明しているのに、何で今さらそういう意見を聞いているのかというのがあったんです。それよりも、もう進めたらいいなと思っていたら、今日はびっくりしたんです。1年前からこういうことがなされていたんだと。

ただちょっと聞きたいのは、設計理念は何なのかを聞きたいんです。基本設計なので、会社の理念というのはすごく生きるわけですよ。

教育施設整備室長

設計会社はもちろん入札で決定しておりますが、この設計会社は、この計画の前提となった新しい時代の学びの環境整備先導的開発事業の基本計画にも携わっておりますので、基本的な理念は十分理解した上で設計を進めていただいていると考えております。

指導主事

教室が並んでいて、廊下があって、一齐にするような授業は明治から変わっていませんでしたが、新しい教育ということで、教室だけではなく、教室から出ても自由に子どもたちが学習できる環境をつくっていく。タブレットを持って自分のしたいこと、したい場所で学習を進めていく。子どもたちがこんなものを使いたいなというときにそれができる教室環境づくり、そういった新しい令和の時代にふさわしい学校づくりという理念で取り組んでいるところです。

教育施設整備室長

実施設計につきましては、必ずしも今の設計会社がしていくという形にはならないかと思えます。それと新しい学校の在り方として、3階部分がコミュニティセンターとしての機能を有しており、新しい学校として、目玉的な施策ではございます。地域の人を利用して、地域の人と関わりながら学んでいくという要素もございます。

教育長

小中学校地域コミュニティ一体型校ということで、少子化等もある中で、子どもたちと地域の人たちが顔を合わせられる教育活動を行っていきたいと思っております。地域の皆さま方に活用していただき、子どもたちを地域で育てる環境をつくっていききたい。これが大きなコンセプトでございます。

5. 意見交換

座長

それでは、次第5、意見交換に入っていきたいと思えます。この基本計画が策定されて、およそ1年が経過しておりまして、学校運営協議会やPTA会議でこの計画がたびたび議題に上がったのではないかと思います。この計画に対する各学校の思いであったり、話し合われた内容について、できれば学校運営協議会、PTA、自治会、それぞれお聞きしたいと思います。それでは椎田中学校から御意見いただきたいと思えます。

委員B

私としては、18日の会議で意見があったように校舎もかなり老朽化しています。そして、今現在、建て替えをどうするかじゃないで、5年経っても人数は減る一方で増えることはまずなくて、今から加速して減っていくんじゃないかなと思えます。だから、先ほど説明された構想をよりよくするために、この会議を受けて協議した上で、子どもたちが本当に満足して教育を受ける場所を一日でも早く達成していきたくて思っています。それが理想じゃないかなと思っています。

それと、小学校4校が統合して、中学校と小学校が一緒になるということで、それに伴うよりよい効果が出るような学校であることを希望します。私、西角田小学校の近くに住んでいるんですけど小学校の跡地をどのようにするか。各自治会も小学校を中心にコミュニケーションを取っている形になるんですけども、これがなくなるとコミュニケーションが取れなくなるんじゃないかという不安がかなりあると思えます。それも並行して検討していただけたらと思えます。

委員 C

第1回全体会議の会議録で委員Gの発言をした方ですが、本日、体調不良で欠席なので、代わりに発言させていただきます。椎田中学校は去年7か所だった雨漏りが20か所になっています。台風時は時間外に職員が出てきて、全教室の水を拭き回するような状況で働き方改革にも逆行しています。雨漏りの度に町に対応してもらっていますが、コンクリートの雨漏り対策は困難であると言われており、悪天候が非常に危ぶまれている状況です。暖房は送風が出てくるだけで全く温まらないものの、電気会社が調べても異常は見つかりません。このような状況の中で子どもたちは勉強していますので、一日でも早く新しい校舎をと願っています。

また、小学生と中学生と一緒に学ぶことの意義について、本日午後に小中学校の教員で話し合いましたが、小学校の先生と中学校の先生が、お互い教え合うこともあるかもしれないので、子どもたちにとって良い教育環境になるんじゃないか。生徒が児童に教える、そして達成感を持つ、小さな子どもたちは上級生に憧れる、そういった点も成果として考えられるんじゃないか。今は学校だけではいろんな課題を解決することができませんので、学校運営協議会や地域学校協働活動の方々、そんな活動によって学校の課題が少しでも解決に向かうんじゃないか、社会に開かれた教育課程ということで、学校と地域が同じ目標を持って、子どもたち一人一人の問題に向き合っていくということが、今日日本で示されている理想的な形だと思います。建物が新しくなるだけではいけないと思います。建物と教育内容や教育理念を合わせて議論していけたらいいなと思っています。

委員 D

小中一貫校になると、7年、2年って言われたですね。そうした場合、ちょっと気になるのは、八津田小学校は6年、3年ですね。7年、2年の教育のカリキュラムと、6年、3年のカリキュラムというのは教育内容も違って来るんじゃないかなという気がします。八津田小学校の子が新中学1年生として進学したときと、小中一貫校の子が中学生になったときにギャップはないんでしょうか。もしあれば、今後そういう部分はどういうふうに解決していかれるのか。

指導主事

教育計画を立てるときに、ソフト面をどうしていくのかということをお指摘いただきましたので、小中一貫教育基本方針というのを立てさせていただいております。その中に、今までは小学校6年、そして中学3年の合計9年間の義務教育制がありましたけれども、その4年（前期）、3年（中期）、2年（後期）という分け方をさせていただきました。なぜそこを分けたかということ、子どもたちの発達段階において、小学1年生から小学4年生までの4年間を前期、そして中1ギャップというのがございますので、小学5年生から中学1年生までの3年間を中期、そして最後の中学2年生、中学3年生の2年間を後期ということで考えさせていただいているところですが、教育の中身に関しては、小学校6年、中学校3年を堅持いたします。計画では義務教育学校ではありませんので、小学校にも中学校にも校長がいます。やはり同じ内容で同じ進路、全く同じものを地域ですべきことはありますけれども、小中一貫教育基本方針を立てて、教育内容に関しては差がないように、小学校と中学校の先生が集まって、国語や算数、その他教科について9年間どう教えていくのか、カリキュラムをつくって、これから実践していくことにしております。

先ほどありましたように、八津田小学校の6年生が中学1年に進学したときに教育内容に関しては全く困らないです。人間関係につきましても小学校の交流会を行っております。中学1年生になったとき、あなたは誰？となるじゃなくて、あのとき一緒になった

ねというような交流の場をつくっていきたい。そのためにはやはりこの3年間というのが大事になってくるんじゃないかなと考えております。

座長

それでは続いて椎田小学校、よろしくお願いします。

委員 A

先ほど申しましたように、こんなに具体的に基本設計が行われているとは思わなかったんですけど、地元としては、じゃあ椎田小学校の跡地はどうなるのか構想を聞いてくれという要望でございました。これは椎田小学校区みんなそうだと思うんですよ。特に所在地である湊については跡地対策、やはりこれも大変なことだと。それと、やはり自治会として登下校で見守ってくれということで、自分の家の近くで朝7時半頃、夕方は3時頃見たりしているんです。地域一体型として、こういう教育環境が整えば本当に素晴らしいことだなと私は思っていますし、令和9年度が決まっていればもう時間ないんですよ。だから今から意見聞いて、まだ皆さんの意見は何かじゃなくて、どういった教育環境、教育水準、教育保障をやっていくという、そういう設計を早くしたほうがいいんじゃないかなと、私は思っております。地元がいい教育環境があれば、地元でみんな育つんですよ。だから素晴らしい学校環境をつくっていただければと、そういうふうに期待しております。

委員 E

施設面は椎田小学校も椎田中学校と同様です。上げていけばもう切りがありません。例えば、ランドセルの棚が昔の型なので入らなくて横じゃなく縦に入れたりとか、天板がボロボロになっていて子どもが怪我をすとか、子どもの安全に関わるものは修理しているところですが、2階にある理科室で水を使うと下の教室が雨漏りをしてしまうので実験とかできませんので、子どもたちを1日でも早く新しい学校に入れていただきたい。

さきほど中学校でも話がありましたが、小学校と中学校の先生が同じ学校にいて指導方法を聞けたり、すぐに話合いができたりと、教員の質を高めることができるので、小学校側からすると、すごくありがたいことですので、とにかく質を下げず、そして子どもたちを安心安全な学校に1日でも早く入れていただきたい。教職員全員、保護者の皆さんも同じ気持ちでこの計画を1日でも早く進めてほしいと思っております。よろしくお願いいたします。

委員 F

私も1日でも早く子どもたちを新しい学校に通わせてやりたいと思っています。前回のスライドで、同級生がいなくて1人で授業を受けていましたが、修学旅行とかどうするのかとか、いち保護者として、同級生がない子は、はっきり言ってかわいそうだなと思います。なので、そういったところも含めて、早くみんなで一緒になって、友達たくさん作って、中一ギャップとかもありますけど、そういったものも乗り越えていけるような、たくましい子どもを育てるためには、同級生がいらないというよりも、たくさんの人に揉まれて育ったほうが、そういう力がつくのかなと思います。

雨漏りも私たちが通っていたときから既にあったと思うんですけど、そういう悪い環境の中で子どもを通わせたくないと思うんです。子どもの健康面への影響もよくないのかなと思いますので、一日も早く、新しい学校に通わせたいと思っています。

委員 G

先ほどから出ていますように、どこの学校も老朽化がひどいですし、子どもたちが安心して学べる環境でないということで、一日でも早く設備の行き届いた新しい学校ができ

ることは、当然の願いだと思います。椎田中学校区は4つの小学校が集まります。これからの課題はハード面というよりソフト面。小原小学校や西角田小学校から通ってくる子どもたちが安心して学べるような、学校に行ってもよかったなって思えるような楽しい学校づくりというのが、これからの大きな課題だと思います。ハード面も大事ですが、もっと大事なのが、ソフト面だと思いますので、学校に行きたくないということが一人でも出ないように、そういう教育をこれからしていただけたらと思います。

座長

それでは続いて葛城小学校、よろしくお願いします。

委員 H

各クラスが一桁の少人数の学校なので、小さい学校から大きい学校に行くのが不安かなという声は出ていました。それでどこの学校も言われましたけど、学校がなくなるといことが、やっぱり寂しいという気持ちもあります。壊される学校もあるだろうし、そのまま利用できる学校もあると思うんですけど、それがどうなるのか、地域の方とのコミュニティが無くなると、子どもが近くにいないと寂れていくという声もあったんです。岩丸小学校が無くなったときに、子どもの声が聞こえなくなって、地域の人も学校という場に行かなくなって、言い方はちょっと悪いんですけど、なんか寂れていったと。そうやっていったら不安かな、それをどうかしてほしいなみたいな意見は出ていました。

委員 I

P T A 役員会の中でこのことについて話をしましたが、やはり少子化でだんだん子どもが少なくなっていて、これはもうやむを得ないことだということは理解されています。ただ、少人数の子どもたちが大きな学校に行くというところに少し不安があるということは言われていましたが、この基本計画を進めることについては特に異論はないということ。それから、学校のほうは、まだ使える設備もありますので、そういうものはどうしていかうかということ、地域の皆さんと今後、検討していきたいと考えています。

委員 J

先日、3回目の学校運営協議会会議でこの話をしました。特に反対という意見はなかったんですが、ちょっと引っかかっていたところが空白の2年と言いますか、最初に話を出されてから2年ほど何も協議されないまま進んできた。それがちょっともったいなかったかなという感じがします。他の校区も同じでしょうけど、西角田小学校区は6自治会あるんですが、地域のつながりが深くて、文化祭とかグランドゴルフ大会とか全員で楽しむという風潮がかなり進んでいて、仲のよい校区なんですけど、跡地整備の問題と一番距離がある学校なので子どもたちの登校を心配されている方がいました。

あと、梅の木が16本ほど運動場の横にありまして、毎年ちゃんと実がなっていて、子どもたちも学校行事で梅ちぎりをやっているんです。文化祭のときに、地域の方をお招きして、ちょっと整備しましょうということで協力していただいたんですが、そのときも、9年度でなくなるので、それ以降も地域でこの梅園を活用していきましょうという話をしましたが、反対意見とかはありませんでした。基本的には、梅園を地域で活用しながら、後々まで財産として残していけるような取組と、コミュニティとしてのまとまりを崩さないようなシステムです。跡地のことも含めて、どう活用をして、なおかつその地域のコミュニティが維持できるかということも、皆さん気にされているので、そこは、構想の中にも一つ盛り込んでいただきたいかなと思います。

指導主事

令和3年度の新しい時代の学びの環境整備先導的開発事業は、椎田小学校と椎田中学校を対象にした事業でございましたが、令和4年9月に町長が学校を再編していくということを述べまして、その後、この適正配置基本計画を策定しましたので、空白の2年ということではなくて、適正配置基本計画を策定してからお示ししてきました。

また、登校については、当然、学校の位置が変わりますので、通学距離が長くなる児童も出てくると思います。その辺の対策とか問題については、方向が定まった段階で、仮称ではございますが、開校準備委員会を立ち上げて、そこで保護者の皆様、それから地域の皆様の意見をいただきながら、解決に向けて取組を進めていきたいと考えているところでございます。

学校教育課長

跡地利用の件については教育委員会だけで話ができるものではございません。当然、避難所の機能あるいは地域の文化祭で集うといった、そういう機能もございます。子どもたちの学びの環境というだけではございませんので、教育委員会は当然ですけど、災害担当、まちづくりの担当など関係部局と一緒に、地域の皆様のお声を聞きながら、検討してまいりたいと思っています。

委員 K

西角田小学校区というのは遠いんです。建物を造って統合します、小中一貫校にしますとか、それは分かるんですけど、子どもたちが安全に学校まで行けるようにスクールバスを出しますよとか、こうしますから協力してくださいとか、保護者に理解してもらうのは基本じゃないんでしょうか。

学校教育課長

当然、スクールバスの運行も検討はしていますが、どの区域までスクールバスを出すのか、現時点で定まっておきませんので、そこは当然保護者の方の声を聞いて、最終的にどの区域はスクールバスを運行するということを決定させていただきたいと思っています。

委員 K

小学校6年生が中学校の野球部に入りたいとか練習に参加させてもらいたいとなったときに、子どもたちは、歩いて帰らないといけないのか、何時までだったらスクールバスで帰れるのかとか、その辺まで、考えてもらわないと、ただ、小中一貫校になりましただけでは。

学校教育課長

築城中学校がスクールバスを運行しているんですが、築城中学校では、終業と同時に下校する生徒については、その時間の運行をしていますし、当然、部活動をしている生徒については、部活動の終了時間にもう1便運行するとか、そういう運用を行っておりますので、またしっかり御意見を踏まえて検討させていただきたいと思います。

委員 L

学校があるまではこの行事を続けよう、学校がなくなったらもう少し考えてみよう、学校と地域が一緒になって考えておりますので、学校としては、今、完全複式で児童が19名なので、いろんな学校と交流関係を広げています。町内であれば小原小学校さんと葛城小学校さんと3校で年3回の交流学习をやったり、本年度で廃校になりますが、昨年度から赤村の赤小学校とオンラインで交流をしたり、それぞれが行き来したりと、人間関係力もつけていく活動を行っておりますが、やはり中学校になると、どうしても大人数にな

りますので、小原小学校さん、葛城小学校さんと交流学习を行っても、卒業生の中には戸惑う子どもたちもいると聞いております。ですので、小中一貫校でいろんな取組をすることによって、子どもたちの能力というものがもっともっと開けていくのではないかと私は考えております。

座長

それでは続いて小原小学校、よろしくお願いします。

委員 M

学校運営協議会と自治会でも話し合いました。皆さん御存じだと思うんですけども、小原小学校が現状で全校児童数11名となっていて、町内だけではなく、京築地区全学校で最少人数となっていますが、11名のうち校区外から通学している児童が6名なので、実際、小原小学校区の児童は5名しかいません。

全国的に少子化って結構深刻なので、小原小学校としては1年と言わず1日でも早く実現できたらなと思います。小原小学校は、昔からプールは設営されておりませんので、毎年、西角田小学校さんまで行って、西角田小学校のプールを借りてプール授業をしています。私自身も小原小学校卒業生で、小学校のときに西角田小学校にプール授業に行っただんですが、そのときに西角田小学校の同級生から、悪気があって言ったわけではないと思うんですけど、小原小学校はプールないの？と言われて結構惨めな思いをした経験もあります。そういう設備面でも、いち早くこれに向けて、皆さんで話し合って進めていけたらなと思います。

1点、保護者のほうから質問を預かっているのですが、令和14年以降、八津田小学校は小規模特認校ということになっていますが、八津田小学校への通学を希望した場合、スクールバスは利用できるのでしょうか。

学校教育課長

現在のところ、八津田小学校に通うスクールバスの運行は考えてございません。

委員 M

八津田小学校への通学を希望した場合は、保護者が通学手段を確保しないといけないということですか。

学校教育課長

保護者の責任において、通学していただくということで考えております。

委員 M

先ほど、新しい学校の設計図面を見たんですけど、設計図面を見る限り、授業の進め方が全く想像ができないんですけど、今までとおり自分のホームルームで教科によって先生が代わって授業をするのか、それとも科目によって教室を移動するのかが全然想像ができないんですけど、この辺ちょっと現時点で構いませんので、分かる範囲で教えていただけたらなと思います。

指導主事

今まで、子どもたちが教室にいて、先生が来るという授業スタイルだったと思います。小学校はそのままですけども、中学校はこれから、国語の教室、数学の教室、社会の教室に生徒が移動していく教科センター方式になります。今までは先生が教材を抱えて教室を周っていたんですけど、例えば、社会の先生は社会の教室にいろんな教材を準備して、より教育効果の高い授業を行っていくという形になります。

委員 N

第3回の学校運営協議会で反対意見はございませんでした。やはり児童数の減少がありますので、早く開校していただかないと、小原小学校は児童がいなくなってしまうのではないかという心配もありました。子どものために新しい学校をつくってほしいという願いがありました。

座長

それでは続いて八津田小学校、よろしく申し上げます。

委員 O

11月22日に学校運営協議会で委員が全員出席して、この件につきまして話をしました。八津田小学校は新校舎になって2年ですけども、子どもたちも新しい校舎で喜んで勉強している状況ではないかと思いますが、先ほど出ていましたけども、小中一貫校と教育レベルが違うのではないかと、小中一貫校は6年生のとき中学校の勉強をしているのではないかというようなことを心配されておりましたけども、校長先生のほうから、町内全部同じカリキュラムで行うということで、理解を得られたところであります。小規模特認校という変わった名前がつくので、人数が少なくなっていくイメージを持ってしまうのではないかと、小規模特認校ではなくて、八津田小学校という校名を残せないかという意見もありました。小規模特認校という意味がよく分からない、小規模特認校という名前をつけないと、補助が何かなくなるのですかと。また、椎田小学校や築城小学校に行けない不登校の子が八津田小学校に集まるのではないかというような心配もされておりました。小学校に上がる前に未就学児の保護者に希望を取るのでしょうかという意見もありました。それから八津田小学校としては、小学校を卒業してから小中一貫校に行くわけがありますけども、そこに対しての子どもたちの不安、そういうのが払拭されるような施策を考えられているのかなという意見もありました。

あと個人的な意見なんですけど、学校にプール設置の予定があるのかなと。八津田小学校もプールがありません。今回の小中一貫校にも図面上はプールがないようにありますのでどうなのかなと。

それと、八津田小学校の校舎は非常に立派になったんですけども、少し寂しいなと思うのが、木が1本もないということです。椎田中学校の校舎はちょうど私たち第1期生ですけど、あの木を今回全部伐採してしまうのかなと。ある70代の方がおっしゃいました。浜宮にあった椎田中学校がなくなり、八津田小学校もなくなり、自分には母校がなくなりました。八津田小学校のソテツの木も最後伐採されました。あの姿を見たときに、本当に涙の出るような思いでありました。卒業生のいろんなモニュメントがありましたけど、それも全部撤去されました。写真で保存しているということをお聞きしたんですけど、もう少し、春になれば桜が咲くような環境というのができないものかなというふうに個人的に思います。今回の小中一貫校の校庭の周りには、そういう木が植えられるのかな、どうなのかなという質問を個人的にさせていただきたいと思います。

学校施設整備室長

樹木の件ですけれども、明日、明後日で樹木調査を行います。もちろん建て替え予定エリアの木は伐採をせざるを得ないと思いますが、樹木調査を行いまして、残せる樹木は極力残していきたいと考えています。

学校教育課長

小規模特認校、ちょっと聞き慣れない名前だとも思いますので、今日は資料を準備しております。小規模特認は、平成9年に文部科学省から通学区域制度の弾力的運用について

という通知が出されて始まった制度でして、それ以降に導入された学校選択制の一つである特認校制度のうち、小規模に取り入れられている制度ということになっています。小規模の基準については、通常学級数が学校全体で6学級から11学級の学校です。11学級以下はもう全て小規模ということですので、八津田小学校は6学級ですから小規模という名称を使わせていただいているということです。

学校選択制について、いろんな制度がございますが、特認校制は記載しているとおおり、従来の通学区域は残したまま、特定の学校に通学区域に関係なく、当該市町村内ならどこからでも就学を認めるものとなっています。基本計画では、それぞれの中学校を核として小中一貫校を整備するというようにしておりますが、これまでも説明させていただいておりましたが、どうしても小学校1年生から中学校3年生までが在籍する小中一貫校になじめない小規模校での就学を希望するお子さんが出てくるんじゃないかということで、令和14年度以降に、八津田小学校を小規模特認校と位置づける計画でございます。

したがって、従来の八津田小学校の通学区域はそのまま残りますので、八津田小学校の通学区域のお子さんは、これまでどおり就学ができます。現在と異なる点は、八津田小学校校区以外のお子さんも通える学校になるということかと思えます。

それと、学習面は町内統一のカリキュラムを組んでやっていきますし、当然、八津田小学校の児童と小中一貫校の児童が触れ合えるような活動を取り入れて、八津田小学校の児童が小中一貫校の中学部に進学するときの不安を解消できるような取組を進めていきたいと考えているところでございます。

学校施設整備室長

計画の中にはプールの整備は入っておりません。先ほどの図面を見ていただければお分かりかと思いますが校舎がかなり大きな部分を占めます。それと、中学校と小学校のグラウンドを整備する予定になっておりますので、今のエリアの中にプールを設置するというのはちょっと難しいかと考えております。

指導主事

教育レベルに差が出ないようにカリキュラムをつくって進めていくということで御理解いただければと思っておりますし、小中一貫校で中学校を先取りするということはありません。きちんと小学校6年間、中学校3年間です。築上町は、転入出の方が多いので転校しても対応できる、転入してきても対応できる中身にしていきたいと思っております。

委員 P

やはり小規模特認校という名前が気になるということで、今説明もいろいろありましたけど、そういうところをやはり考えていただければというふうに思います。

それから、4月のPTA役員会で議題にしましたが、やはり小規模というイメージの問題で人数が減るとか、あるいは不登校の子を集めるとか、そういう声で保護者が翻弄された感じはしました。そこで役員会で説明をしていくと、ああ、なるほど、そういうことなんだなということでもかなり納得して、先ほどあったように小中一貫校のカリキュラムの件も、今こういうふうにして教職員みんなでやっているよという話もしていきました。そういうところで保護者もある程度理解していただいて、八津田小学校のことを心配していただいて非常にありがたいなと思うんですが、私は昨年までの2年間、椎田小学校にいました。雨が降った次の日に学校に行くのがすごく心配なんです。雨漏りがどうなっているか、漏電の心配はないか、よそで地震があっても大丈夫なのかな、本当にそれほど校舎が老朽化していて、冬の寒さなど、いろんな面で早く新しい学校ができたらいいなと思っ

ていました。今回、八津田小学校に異動になりました。すごく快適な学校で、インターネットも待ち時間無しの最新の施設です。

それから、子どもたちは2階にいますけど、2階フロアで全て完結できる。特別教室も全て2階にあるんです。遮音のきいた音楽室、充実している理科室、それから図工室。他の学校は教室で図工しています。家庭科室も最新のものが入っていて、教育環境が本当に素晴らしい。こういう中で子どもたちは学べて本当に幸せだなと感じています。安心安全の学校、これが学校の一番の姿じゃないかなという気がしています。

それから、小中一貫校との連携で心配がいろいろあると思うんですが、今はオンライン授業が発達していますし、スクールバスも充実すると思いますので、5校では難しかった小学校同士の連携も2校であればそれぞれの学年と交流することもできる。もう一つは、教科担任制が入ってきます。中学校の専門性を持った先生とオンライン授業をつないで、小学校の教員の補助をしていただくとか、オンラインをフル活用できる。今、八津田小学校はオンラインが充実しています。今度は新しい学校も高速でいろいろできると思いますけど、そういう中で学校が工夫すれば、いくらでも交流できるんじゃないかなという気がしています。

それから、1月に各小学校の6年生が八津田小学校に集まって、中学校の先生が3教科授業してくれます。5～60人が入る多目的室や音楽室、理科室とか、本当に快適な教育環境の中で中学校の先生と一緒に授業できる。これからの子どもたちはこういう学びができるんだな、個別最適な授業づくりは、古い建物ではどうしてもできないんですよ。広くて明るい空間、安心安全な教育環境が充実した学校で、子どもたちがたくましく生きていける、自分たちの学びを深めていける、そんな学校を作っていきたいなと思っています。

座長

ありがとうございます。全員の意見をいただきましたけど、ちょっと言い忘れたことはないでしょうか。

委員 H

放課後児童クラブもできるとなっていましたけど、八津田の放課後児童クラブは八津田小学校が使うんでしょうけど、児童館の放課後児童クラブがなくなるんでしょうか。

学校施設整備室長

小中一貫校の児童が通える大きさでつくるようにしております。設備につきましては、令和9年度の開校が終わった後、校舎を壊してその跡地につくりますので、令和9年度ということではないんですけど放課後児童クラブをつくる計画になっております。

座長

小中学校からたくさんの意見をいただきましたけれど、ここで未就学児の保護者の方から寄せられている声があれば聞かせていただきたいと思います。

委員 Q

新しいものはすごく魅力的だなと思うんですけど、古きよきものを残すじゃないですけど、畑だったり、田んぼだったり、敷地内で作るのは難しいかもしれないんですけど、外に赴くんじゃなくて、敷地内でできればそういった取組ができるような環境があればよりいいのかなと思いました。

指導主事

自ら育てることが一番大事だと思いますので、そういった環境は是非つくって

いきたいなと思っているところです。検討していきたいと思います。

先週、築城中学校区部会にも参加させていただき、本日、椎田中学校区部会にも参加させていただきましたが、皆さんの議論のトーンが違うなというのが、第一印象です。何でかなと思うと、やっぱり建物が新しくなるということと、現状、老朽化の問題で非常に学校教育の活動に不具合が出ているところかなと思います。施設を新しくするのはお金もかかることですし、財源もあると思うんですけど、今回、椎田中学校区は新しくなるということで、地域の方もいろいろと不安はあるでしょうけど、おおむね前向きに考えられているのかなと思っています。

築城地区については、築城中学校を建て替えるときに立ち返ると何でこんな議論をしなかったのかと思うんです。学校に関してだけじゃなく、いろいろあると思いますけれど、町としては今回示しているプランでいきたいと。当然、町長の考えもあるでしょうし、教育長の考えもあると思いますけど、中学校は2つ残していくんだという方針で、築城中学校区については、施設分離型でいくんだという方向で今考えられていると。地域の方が施設のメリットをあまり感じられない、でも不安に対してしっかり代替案を示していただいて、こういった不安に関してはこういうふうで解消していくんですよということを一緒に論じていかないと、地域の方だったり、保護者の理解はなかなか得られにくいのかなと思います。おそらく、椎田中学校区の保護者も細かい話をすれば不安はいっぱいあると思いますけれど、新しい施設に子どもたちが通えるということに関して前向きに捉えられているのかなというふうに思っています。

自分は築城中学校区の人間なので、このプランを見たときに、今の町長の体制の中で、中学校2校を残すとなっているかもしれないんですけど、町政が変わったとき、子どもたちが減っていった中学校を1校にするのかという話になったときに、なかなか推計は難しいかもしれないんですけど、新しい学校に子どもたちが全て入れるのかどうかということ。この大きなハード物を建ててしまったら、改築するのにもお金がかかるというところがまず1点。もう1点は、せっかく新しい小中学校を建ててるいい計画だと思いますけど、特別支援学級の問題。今、未就学の段階からチェック体制というか、メッシュが細かくあって、非常に注意深く保健師さんを中心に見てくれていて、特別に支援を必要とするお子さんが全国的にも非常に増えています。推計はなかなか難しいところがありますが、新しい学校をつくるに当たっては、特別支援学級の在り方とかも、しっかり議論していただいて、いい学校にしていきたいなというふうに思っています。

7. その他

8. 閉会

午後7時50分閉会